

研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書 及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。 その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<研究課題名>

左室頂上部（Left Ventricular summit）を起源とする心室性不整脈に対するカテーテルアブレーションにおける電気生理学的・解剖学的特徴の探索的観察研究

<研究機関・研究責任者名>

慶應義塾大学病院循環器内科 高月誠司

<研究期間>

実施許可日 ～ 西暦 2025年12月31日

<研究の目的と意義>

特発性心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療は、有効な治療法として広く普及しています。しかしその中でも左室頂上部、心外膜側起源の心室不整脈の成功率は約 50%といまだ十分な成績が得られていません。原因として、この部位は冠動脈が走行している部位に非常に近く、カテーテル焼灼により心筋梗塞を起こすリスクになってしまい、焼灼できないことが多いこと、また解剖学的に反対側である心内膜側から焼灼すると、熱が起源に及ばず再発する原因になることが挙げられます。今回我々は、3D マッピングシステムと心腔内超音波カテーテルを用いて、電気生理学的・解剖学的の両方の指標を多施設で後ろ向きに解析し、左室頂上部起源の心室性不整脈へのアブレーション成功率を上げるべく、有効な治療戦略を探索します。

<利用する試料・情報の項目>

左室頂上部起源の心室性不整脈に対してカテーテルアブレーションを施行した患者さんの心電図や心臓電気生理学的検査およびアブレーション中の心内電位、3D mapping system データを使用します。

<対象となる方>

2012年1月1日～2024年12月31日に当院循環器内科で左室頂上部起源の心室性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療をされた方

<研究の方法>

上記患者さんのカテーテルアブレーション中に、心臓電気生理学的検査およびアブレーション中の心内心電図、3D マッピングシステムのデータを使用します。マッピングやアブレーションの手技は、従来どの患者さんにも行っている、安全性が確立されています。また、得られたデータを後から解析しますので、安全性には問題ありません。この検討により、従来のアブレーション方法では難渋していた心室性不整脈への新たな治療指標を確立することが目的です。本研究で得られた結果については、研究対象者の個人情報に留意し、学会、論文等で発表予定です。

＜研究組織＞

日本大学医学部附属板橋病院 永嶋孝一

札幌心臓血管クリニック 循環器内科 北井敬之東京

慈恵会医科大学 循環器内科 徳田道史

小倉記念病院 循環器内科 福永真人

群馬県立心臓血管センター 循環器内科 吉村真吾

慶應義塾大学病院 循環器内科 高月誠司

三重ハートセンター 循環器内科 加藤真史

東京都立広尾病院 循環器内科 深水誠二、北條林太郎

＜お問い合わせ窓口＞

慶應義塾大学病院 循環器内科 (東京都新宿区信濃町35)

氏名：山下 修平

電話：03-3353-1211 (PHS) 67277